



上智大学創立 100周年  
 上智短期大学創立 40周年  
 上智社会福祉専門学校 50周年



## レンガ募金による1号館

No. 8

### 1. 1号館は世界の人びとの善意による寄付金で建てられた



現在の1号館

「今もなお、そのそばを通ると私の『煉瓦』もその中にあると思うときがある。」キリシタン研究で著名なドイツ人フーベルト・チースリク神父がこう懐古している。「そのそば」とは、1932年に竣工した1号館のことである。実は1号館は、赤煉瓦校舎のような「レンガ」造りの建物ではない。鉄筋コンクリート5階建て（地上4階、地下1階）の校舎である。では、なぜ私の『煉瓦』が1号館の中にあるのか。

1928年、上智大学は念願叶って大学令による大学に昇格した。多数の学生を収容できる校舎が必要と

なり、その建築資金の調達のために海外で寄付を募ることとなった。この募金活動に東奔西走したのは、ドイツ人ブルーノ・ビッテル神父。募金事務所をドイツのケルンに置き、ドイツ国内だけでなく、オランダ、フランス、アメリカなどのカトリック教会・学校あてに寄付を呼びかける用紙を送付した。

右の写真がドイツ語版の用紙である。関東大震災によって倒壊する前の赤煉瓦校舎が描かれ、その下に「ご

援助いただけませんか？」で始まる文章と、1ライヒスマルクと書かれたレンガが25個、6段に積み重ねられている。用紙の文中には「1つでも2つでもあなたのお名前でも埋めてください」と記されていて、各レンガには寄付を寄せてくれた人の署名がある。名もない人の善意に頼る



ブルーノ・ビッテルS.J

寄付であり、同じ人の名前がいくつも見られたり、子供だとわかる筆跡で署名してあるもの、金額を1ライヒスマルク未満に書き直してあるものもある。この募金用紙は上智大学史資料室で大切に保管されていて、数えてみるとドイツからのレンガが最も多く19,375個、フランスからは400個、アメリカからは75個あった。

チースリク神父は「私はまだ14・15歳の中学生であったが、ある日私のクラスにもこのような用紙が飛び込んだ。そして私たちも皆わずかな小遣いから、一個のレンガを買った」と雑誌『聖心の使徒』に書いている（「ビッテル神父の思い出」）。ドイツのアデナウアー首相も、理工学部建設募金のためにドイツに赴いたルーメル理事長（当時）に「寄付の用紙を息子がもってきたことを記憶している」と、語ったという。

もう1人、1号館の建設に大きな影響を与えた人がいる。ローマ教皇ピオ11世である。教皇は、「上智大学の学舎建築のために拠金する親愛なる信徒諸氏に大いなる愛と父親としての感謝の念をこめて教皇祝福を与える」と、募金活動を支援した。募金用紙は2種類あって、ひと



寄付を呼びかける用紙



ピオ11世

つは右の写真のものである。もうひとつはレンガ 50 個積み重ねられたもので、そこには「教皇様が東京にカトリック大学の新校舎を建設されますのでご援助ください。これは教皇様の切なる願いです。教皇様にささげるものは、キリストにささげるものとなります」と書かれている。ちなみに、この教皇あての献金はレンガ 3,150 個となった。

このように、1 号館は全世界の人々に寄付を募り、その一人ひとりの善意による「レンガ募金」で建てられたのである。

## 2. 1 号館の歴史的な変遷

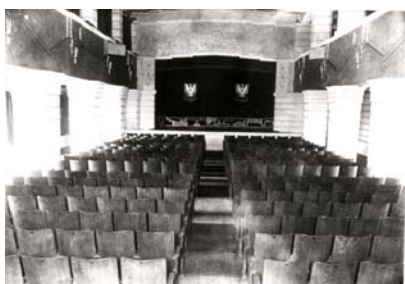
1 号館は、1930 年に定礎式が厳かに行われ、礎石には定礎



定礎式でラテン語の定礎証書を読むホフマン学長



1935 年頃の 1-403 教室



多目的に使われた1号館講堂、約 310 人収容できた

証書、教授・学生の名簿、オCONNELL枢機卿のメダル、新しい日本硬貨などが入れられた。竣工は 1932 年 6 月 12

日。竣工に先立って図

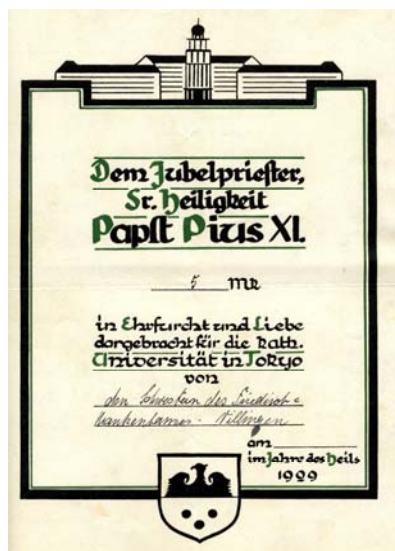
書室へ 32,000 冊の図書の本搬入、4 月からは授業も行われていた。設計者はドイツ人マックス・ヒンデル、建坪約 4580 平方メートルであった。落成式は 6 月 12 日から 19 日にかけて盛大に祝われ、記念式典、レコード演奏会、演劇、記念講演会、ゲーテについての講演や映画「ファウスト」の上映、新交響楽団による演奏会、山岳部・自動車部・新聞学科の展示なども行われた。式典ではローマ教皇使節も参加、海外からの招待客を含んだ国際色豊かな落成式であった。

1 号館は、第二次世界大戦中の東京大空襲を免れた本学で最も古い校舎である。竣工当時は、エレベーター付きの最新の設備とドイツ風の重厚な建築を誇っていた。1 階には広い玄関や事務室、図書館や閲覧室などがあり、2 階から 4 階には大小さまざまな教室があった。地下には、学生用食堂、浴室、更衣室のほか、作業室、機械室などが設置されていた。また西翼の 2 階・3 階部分には多目的に使われていた講堂があり、戦前には入学式・卒業式な



1号館講堂は「上智小劇場」として学生の演劇活動で使用されている

「叙階記念日をお迎えする司祭、教皇ピウス十一世陛下に、5 マルク、敬意と愛をこめて東京のカトリック大学のために捧ぐ、フリードリヒ病院(ヴィリンゲン)のシスター一同、キリスト紀元 1929 年」と書かれている。



どの式典、講演会、学生による演劇活動の場として使用され、戦後は、主に公開講座や一般教養科目の大教室として活用されてきた。1971 年に体育館が竣工すると、式典の場は体育館に移行し、1 号館講堂は学生の演劇活動の場として使用されるようになった。

## 3. 21 世紀のレンガ募金が行われている

2013 年に創立 100 周年を迎える上智大学は、国際的に評価される「世界に並び立つ大学」として、さらなる飛躍を遂げるため、募金活動に取り組んでいる。これを 21 世紀版の「レンガ募金」として位置づけ、これに応じる卒業生、国内外の善意の人びとも少なくない。